

値上げラッシュ

バタバタしながらのあっという間の3ヶ月が過ぎ、早4月です。プロ野球も開幕し、只今首位独走中！都合により2ヶ月ぶりの執筆となったこととお詫び申し上げます。

さて、4月からはガソリンの価格が一時的？に下がりましたが、食料品などの相次ぐ値上げラッシュが続いています。ある統計によると、この食料品の値上げによる負担増は夫婦と子供2人の4人家族で月5千円弱にもなるそうです。

小麦粉の値上げの影響からか、大阪名物のお好み焼きやたこ焼きの値段を上げるお店が相次いでいます。私のひいきにしているお店もさんざん思案した結果、定食を10円だけ値上げすることにしたそうです。2005年に消費税法の改正で納税義務者になったときにも思案の結果10円値上げしました。「これくらいやったらお客さんも理解してくれると思うからね。お客さんに逃げられるのこわいんよー」。と苦渋の決断であることを嘆いておられました。

お昼の定食というのはお客さんにとってはそれこそ10円20円の攻防で、値上げに対して敏感に反応します。例えば、600円の定食が、650円(率にして+8.3%)に値上げとなれば、相当な影響があるでしょう。もっと安い店に流れるか、回数を減らすとかの客離れが懸念されます。ところが、例えば夜のコースメニューで、3,000円が3,250円(率にして同じ+8.3%)になったとしても、あまり負担増という感覚にはなりません。昼より夜の方が一般的にサイフのヒモが緩むこともあるでしょうし、もともとの客単価が高いので値上げ幅が小さいと感じるのか、これらは一種の錯覚であると私は考えます。

回転すし店では、一皿100円が売りなので、本命の寿司の価格はずっと据置ですが、ビールやうどん、デザートなどのサイドメニューはいつの間にもやら値段を上げています。結果的に客単価が上がることにはなりますが、お客さんとしてはあまり負担増という感覚にはならないようにうまく運営していますね。

3月末のスーパーの駆け込み需要による大混雑や、4/1当日のガソリンスタンドにおける自動車の長蛇の列などの報道を見ると、一般庶民の価格に対する敏感度はすさまじいものを感じます。自動車ですら安いスタンドへわざわざ出掛け、又、待っている間のアイドリングによるガソリンの消費を考えると、どれだけ節約になるのか疑問を感じることもあります。

5月になれば再度ガソリンの価格が上がるのか？もしそうなれば、4月末には4月の初旬以上の駆け込みが発生する可能性があります。ガソリンの暫定税率の存在やムダ使いがあぶり出された「ねじれ国会」のメリットの面もありますが、1ヶ月の間に価格がジェットコースターのごとく急激に下がったり上がったりするとすれば、単に生活の混乱を招き、政局に国民が振り回され、一体誰の為の政治なのかわかりません。

衆議院では与党は2/3以上の絶対的な多数を占めているにもかかわらず、参議院では野党が過半数を占めているが為に、野党には「拒否権」という強大な権力が転がりこんできました。絶対多数の政権与党といえども、民主党の顔色を伺わなければ日銀の総裁すら決められないという不安定な政権です。

いずれにしても、多くの賢明な国民は目先の利益だけで一喜一憂するほどおろかではないはず。ほんとに必要なムダのない財源を確保するのであれば、ガソリン税や消費税の税率引き上げについても、理解を示すのではないのでしょうか。官僚と長期政権の与党との馴れ合いのつけが、ねじれ国会において湧き出た混乱であるともいえますので、これを機会にもっとも官僚のムダ使いを暴く必要があるのかも知れません。